

## 12 草加宿 ~ 越ヶ谷宿

埼玉県草加市 埼玉県越谷市  
松原団地 ~ 蒲生

(歩行距離 1904m 24分)

歩く地図でたどる日光街道

http://nikko-kaido.jp/  
JZE00512@nifty.ne.jp



久伊豆神社 旧蒲生村の鎮守。「此所に小宮あり。所の人にとへともしらす。菊岡の書にししのぶのもりとあるゆへあまねく尋ねしにしらす。此宮のしのぶの森の明神ならんか」(日光道中行程記安見絵図)

ヘルシーロードを行くと、馬頭観音、さらに近藤勇が捕らえられ江戸に護送される途中休んだ一橋が行くことができる。



金明町氷川神社の算額



宝積寺の木像千体地蔵

宝積寺 千体地蔵は、以前は境内の地蔵堂に安置されており、須弥壇(しゅみだん)中央に本尊の勝軍地蔵及び両脇侍(りょうわきじ)地蔵が置かれ、その周囲に一列五十体、二十段にわたって千体の小地蔵が並列されていましたが、現在は新築された本堂中央の須弥壇を挟んだ左右に安置されています。

千体地蔵は、作風からみて江戸後期の造立と見られますが、今日まではほぼ完備した姿で伝えられているのは珍しく、貴重な存在です。

### 近藤勇

鳥羽・伏見の戦いは慶応4年(慶応4年(1868)1月3日から6日)において敗れた新選組は、幕府軍艦で江戸に戻る。3月、幕府の命を受けた近藤は大久保剛と改名し、甲陽鎮撫隊として隊を再編して甲府へ出陣したが、甲州勝沼の戦いで新政府軍に敗れて敗走する。その際、意見の対立から永倉新八、原田左之助らが離別した。その後、大久保大和と再度名を改め、旧幕府歩兵を五兵衛新田(現在の東京都足立区綾瀬四丁目)で募集し、4月には下総国流山に屯集するが、香川敬三率いる新政府軍に包囲され、越谷の政府軍本営に出頭する。

しかし、大久保が近藤勇と知る者が政府軍側におり、そのため総督府が置かれた板橋宿まで連行される。近藤は大久保の名を貫き通したが、元隊士で御陵衛士の一人だった加納篤雄に近藤であると看破され、捕縛された。その後、土佐藩(谷干城)と薩摩藩との間で、近藤の処遇をめぐり対立が生じたが、結局、4月25日、中仙道板橋宿近くの板橋刑場で斬首された。享年35(満33歳没)。首は京都の三条河原で梟首された。その後の行方は不明である。

coffee time

### 東武鉄道新田駅

江戸時代の開墾により、武蔵国では全体で約400の新田が生まれ、草加市域だけでも「新田」と呼ばれた村は120カ村にのぼります。元禄(1688年頃)から享保(1736年頃)までの田を「古新田」、以降のものを「新田」としましたが、明治になり9カ村を合併して誕生した村のうち、6カ村が近世開発新田だったところから「新田」と命名し駅名にもなった。

### 松尾芭蕉と門下生の河合曾良

草加松原遊歩道の北端、東京外環自動車道の下をくぐった左側の壁面に、草加と「おくのほそ道」の案内がある。俳聖・松尾芭蕉は紀行文「おくの二十七日」の中で、元禄二年三月二十七日、江戸深川を出立し、「その日やうやう(ようよう)に早(草)加といふ宿にたどり着きにけり」と記しています。この絵タイルは、その「おくのほそ道」の旅を想像して描いたものです。平成八年三月吉日。縦2.4m横4.0mの大きさに描かれた絵タイルがある。

## 5 蒲生一里塚

日本橋から5里の一里塚。綾瀬川と出羽堀が合流する蒲生愛宕町にあり、高さ2m、東西5.7m、東北7.8mの長方形です。文化年間(1804~1818)に編さんされた「五街道分間延絵図」には一里塚が東西に描かれているが、現在は東側のみが残る。塚の横に道標と供養塔がある。道標は安政4年(1857)のもので「成田山 是より八条へ寄る 流山へ六里」と刻まれている。埼玉県内の日光街道沿いに残る唯一の一里塚。

不動尊 馬頭観音 大相模不動「是より大さかみち」、横に「時干 享保13年申戌9月28日」の供養塔と、安政4年(1857)の道標がある。

茶屋通り(下茶屋) 草加松原の北端から越谷市蒲生までの通りの呼び名で、草加側を出茶屋、蒲生側の立場を下茶屋(蒲生茶屋)と呼んでいた。日光街道を往来する人々や綾瀬川べりの「藤助河岸」に集まる船頭相手に商いをしたり、舟荷を扱う店などが立ち並んでいた。

越ヶ谷の豪族 会田出羽が、綾瀬川沿いの湿った土地を開発するために、灌漑用の堀を造り、水田とした。

岩槻慈恩寺に通じる道。「これよりぢおんじ4里」の道標。



藤助河岸跡(復元)

藤助河岸 越谷市蒲生の綾瀬川通りにある藤助河岸は、高橋藤助の経営により明治時代には汽船までが就航するほどに繁栄しました。このころ古利根川や元荒川の舟運は陸上交通の発達により衰退していきましたが、陸運道中(旧日光街道)に面しているという地の利を生かし、大正2年(1913)には資本金5万円の武陽水陸運輸株式会社となり、越谷・粕壁・岩槻から荷車で運ばれてきた特産物を、舟に積み替えて東京に向けて出荷していました。

しかし大正9年(1920)に東武鉄道が開通し、越谷駅が設置されたのを期に、しだいに衰微し、昭和初期に事実上廃止されました。現在この藤助河岸は荷の積み降ろし小屋の一部が復元され、唯一当時の面影を伝えるものとして保存されています。越谷市商工会ホームページ

### 交通の要衝綾瀬川

川口市、草加市との境を流れる綾瀬川は、古くは荒川の一分流でしたが、「あやしの川」ともいわれるほど上流部で川筋がいく筋にも分かれていました。「九十九曲がり」と表現されるのはなほだしい蛇行は、流れが緩やかで水量が豊富であることから舟運に適し、綾瀬川舟運は埼玉と江戸・東京を結ぶ重要な交通手段として役割を果たしていた。

### 水原秋桜子句碑

草加せんべいの句をしたためた石碑が、中曽根橋のたもとにある。「草紅葉草加煎餅を干しにけり」